

帯広が2年連続全道一 十勝が道内46% 17年産ジャガイモ収穫量

道農政事務所は2017年産ジャガイモの市町村別収穫量を公表した。十勝管内では帯広市が12万5700トンと最も多く、2年連続で全道一の産地となった。管内全体の収穫量は86万400トンと台風被害で不作だった16年産から22%増え、全道分の46%を占めた。

◆2017年産ジャガイモの市町村別収穫量

	収穫量 (トン)	作付面積 (ha)
帯広	12万5700	3580
芽室	11万7900	3320
幕別	9万4600	2530
士幌	9万0000	2230
更別	8万6800	2060
更音	8万0200	2140
中札内	4万4100	1010
鹿追	4万0400	1050
豊頃	3万9100	941
上士幌	2万9800	768
清水	2万9200	887
浦幌	2万8900	799
本別	2万0400	578
大樹	1万1600	299
池田	1万1000	320
新得	5440	154
足寄	3640	87
広尾	1630	48
陸別	-	-
十勝計	86万0400	2万2800
道内計	188万3000	5万1300

※陸別は数値を公表していない

農林水産省が都道府県別に公表する「作物統計調査」の調査データを基に集計した。全道収穫量は188万3000トンに達し、64万4000トンのオホーツクが十勝に次いで多かった。

管内では帯広市に続き、芽室町が11万7900トン、幕別町が9万4600トンの順だった。十勝以外ではオホーツク管内の斜里町（10万5700トン）と網走市（10万2800トン）が多い。

管内では作付面積も帯広が3580ヘクタールと最も広がった。10アール当たり収量は中札内村が4380キロと最高。更別村や足寄町なども4000キロ超の収量だった。

また道農政事務所は、17年産の主な野菜産地の市町村別収穫量も公表した。この統計では、「夏ダイコン」で帯広市が1万8000トンと全道一。「秋ニンジン」は幕別町が1万9500トンと最多だった。

雪不足に農家複雑 春作業など遅れ懸念 「野良イモ」防除は効果 2019年1月15日

今年の冬は例年になく降雪が少なく、農家は複雑な表情をのぞかせている。土壌の凍結が進むことで、昨年収穫しきれなかったジャガイモが雑草化する「野良イモ」を防げる半面、春作業の遅れや秋まき小麦の生育への不安が高まっている。

帯広測候所によると、帯広市内の14日現在の積雪量は9センチで、平年の4分の1程度。管内の畑ではあちこちで表面の土が見えている。15日夜は雪になる予報だが、同測候所は「市内では積もっても5センチ程度」とする。

通常ならこの時期、雪で覆われた畑を重機で除雪する「雪割り」が本格化している。地表を露出させて冷気にさらし、「野良イモ」を凍死させる作業のことだ。

昨年のように天候不順で小ぶりのジャガイモが目立つと、翌年は野良イモが多くなる傾向にあるが、今年は雪割りの負担が大幅に減少した。帯広市愛国町の黒田勝史さん（46）は「今年は雪割りの必要がない。野良イモの心配が少ないのは助かる」と語る。

半面、雪が少ないことへの心配も多い。土壌の凍結が進むと春作業の遅れが考えられるからだ。黒田さんは「凍結が続くと春に『しばれ』が抜けず影響が出る」と心配する。

同じく市内愛国の橋本崇紀さん（42）は、昨年秋にまいた小麦への影響が気がかり。今年は畑を覆う雪がなく、緑色の小麦の芽が出てしまっている所も。「凍結で

土にひび割れが起こり、根が切れてしまわないか」と不安がる。

十勝総合振興局は「小麦は秋の生育が良かったのであまり心配はないと思うが、適度に雪がある方がよい。このまま雪が降らなければ心配は出てくる」（農務課）としている。



雪がなく緑色の小麦の芽が見える帯広市内の畑